手傳とゝて下等士官壹人宛手ニ附罷在候則

第一等士官之手附　機械方

第二等同　大砲方

第三等同　船頭又ハ水夫頭

第四等同　按針役并大工

一火藥并銃丸圍場之鍵ハ常〻第一等士官之預りに有之候此者之許免無之候而は決而戸口開候義相成不申候事尚其邊ニて火不起樣煙草呑さる樣前廣能心を付可申事右等之節は番卒壹人圍場入口ニ差置可申鐵器則小刀脇差を帶候者は圍場内ニ入申間敷事右は危事有之故に候

一此許多之配慮御覽可被下候右は新指揮役熟讀習熟いたゝ候ため日本語ニ翻譯分明なる儀無餘儀事ニ有之候船の爲め肝要并用達を被得度候ハゝ右之諸件相守可被申候指揮役義ハ其爲の役前ニ有之候尚士官之向ニ役目割付有之候得共指揮役儀は一体之役前ニ有之候間各士官之勤方之義も心得可申事且又指揮役儀者下役之爲名譽良善之手本と相成候而彼者共の惡事不法を防候樣行狀正敷有之へき事一何も飲酒ニて大醉不致樣指揮役心附可申事此儀軍船ニ於ては至て危き曲事ニ付急度相制可申事ニ有之候

一指揮役は服躰作法并精勤之義ニ付而は手本と相成可申亦嚴ニ仕置を取行ふとも適當廉直を旨とゝ都而賤ゝみ輕るの所業ハ相制可申事下は常〻上に對ゝ尊敬隨從可有之尤上は下を作法之通り取賄可申事右は何も國帝之官服武器を持國帝御用之爲譽を得候故に有之候

一軍令は行狀勸整之宜を勸賞し不法を相當に罰し候儀にて相立申候

一刑戒之無餘儀を輕し候には過失を爲んとする折を奪ひ又ハ妨可申事此爲には上ハ下ニ不絶氣を付候義又ハ夜中隔り候場所之通路を閉し又ハ船の下段に程能火を點候義要用ニ有之候是者士官并番兵等萬事見通宜候樣いたし候爲ニ候

一船中刑戒之沙汰少きは其船取締宜指揮役其國帝ニ忠勤之徵ニ有之候

一初發日本軍船支配被成候指揮役の爲秘密異見如斯ニ候御覽可被下候

一十九年來拙者儀種〻之船之致指揮常にヶ樣取計來候而格別都合宜敷有之候依之拙者義左樣御取扱之儀可然と安心致し御進め申候

一海軍之爲法度取建ニ相成候儀肝要ニ可有之國帝より其爲に御下知御座候ハ拙者未タ日本ニ居候事故拙者力之及ひ候丈ケハ異見の程申立候樣仕度候

一其許前件之儀日本之爲要用ニ可有之被存候ハヽ日本政府ゟ御申立被下度御願申候

日本差越之指揮役
船將次官
グファビュス

於日本和蘭領事官に

文久三亥年八月六日周防守下附

大目付
御目付
ヘ

御軍艦之儀者
御國印白地日之丸之外白地中黑之旗常ニ大檣上ヘ引上置
候間此段向〻ヘ可被相觸候

八月

海軍歷史卷之四

海軍歷史卷之五

海軍傳習之下

目錄

學生ノ人名
江戸大地震
教師ノ職俸官名
傳習ノ學科
諸藩ノ學生
長崎地役人及譯官ノ人名
佐賀侯ノ卓見
永井氏ノ區劃宜キヲ以テ教師ノ歡心ヲ得

再派學生ノ人名
コットル船ノ製造
留學生ノ建議
傳習經費ノ指令
外國貿易取扱ノ命
舊法變革家定將軍ノ英斷
英人廣東ヲ燒拂
外國人ノ待遇ニ關スル和蘭領事官ノ忠告
教師學生新陳交替
永井玄蕃頭其他學生觀光丸ニ乘組歸府
岡部木村永井ノ後任トナル
軍艦操練所建設

同上教員ノ人名
海軍稽古規則
咸臨丸長崎來着
新來教師職俸官名
舊教師歸國
ペルスレイケン氏ノ書牘
教師歸國ニ付賜品
新生徒ノ人名
傳習科目時間
新教師渡來ヨリ傳習ノ結末
朝陽丸來着
虎烈拉病流行

學生鵬翔丸ニテ歸府
英國女帝蟠龍艦ヲ贈ル
學生朝陽丸ニテ歸府
船旗改定之布令
傳習停止ノ旨ヲ教師ニ達ス
教師歸國

海軍歴史巻之五

海軍傳習之下

安政ノ始ニ當リ近年海軍興立ノ儀起リシヨリ終ニ衆議決定シ各員爲傳習可被遣旨被申渡是實ニ同二乙卯年七月廿九日ナリ此時蒙命ノ人員寡少且創初之業極テ式微ト雖モ從此時後陸軍之傳習文學之術業歐洲法ノ我邦ニ入リ公然其規式ヲ採ルノ濫觴ニシテ其基礎ヲ爲スト云ハサル可カラス

此時閣老之首座阿部伊勢守幕政ヲ執リ同時言行ハルヽ各員ハ數名ニ過キス勘定奉行松平河内守大監察筒井紀伊守土岐丹波守監察岩瀬肥後守大久保右近將監堀織部ニテ長崎地ニ在勤シ傳習諸取締タル者ハ永井玄蕃頭（今ノ介堂）等我賤

愚諸賢之末ニ列シ傳習生タルヲ以テ見聞之瑣事ト雖ﾓ記シテ以テ後證ニ備ヘントス

奥田主馬支配
小普請　勝麟太郎

右ハ長崎表阿蘭陀ヨリ献貢之蒸氣船運用其外傳習トシテ被差遣候間早〻出立可致旨且又小十人贊善右衛門組矢田堀景藏被差遣幷彼地在勤御勘定格御徒目付永持亨次郎申合一同重立取扱可申候尤外役〻職方之者共ﾓ被遣外國人ヨリ傳習受候事ニテ不容易御用筋ニ有之候間銘〻一時之功ヲ爭ヒ一己之名聞ヲ相立候樣之義有之候テハ以之外ニ付右樣之儀聊ﾓ無之樣厚ク申合外役〻下〻迄右之心得ヲ以テ如何之義ハ勿論不取締等無之樣可取計候尤永井岩之丞義諸事引受指揮イタシ候事ニ付万端得差圖可相勤旨今廿九日阿部伊勢守殿被仰渡候依之申渡

卯七月廿九日

此佗各員夫〻申渡アレﾄ暑之

同年八月傳習トシテ長崎ヘ被差遣候者昇平丸ニテ可被遣旨申渡有之傳習生總員二分シテ半ハ乘船半ハ陸行トナル

其乘船之各員

矢田堀景藏

右ニ附屬

塚本桓輔

堀貞次郎

高橋昇吉

外從者

勝麟太郎

從者

江川太郎左衛門手代

岩島源八郎

望月大象

長澤鋼吉

石井修三

鈴藤勇次郎

浦賀奉行組與力

中島三郎助

佐々倉桐太郎

同心

土屋忠次郎

春山辨藏

濱口與右衛門

岩田平作

山本金次郎

金澤種米之助

飯田敬之助

船大工

熊藏

長吉

砲術師範金三郎忰
下曾根次郎助

同時陸行シテ長崎ニ到ル各員

鐵砲方田付四郎兵衛組與力
尾形作右衛門
松島鐸次郎

同心
川下作十郎
關口鐵之助
關川伴次郎
近藤熊吉
村田小一郎

同井上左太夫組與力
三浦新十郎
蜷川藤五郎

同心
中村泰助
小笠原庄三郎
鈴木儀右衛門
小川喜太郎
福西甚平

天文方出役
福岡金吾
小野友五郎

昇平丸ハ薩摩ニテ製造セシ三桅帆前船ナリ運輸方ハ同家之船手水夫幷鹽飽島水夫十五人

同年九月朔日乘組同月三日解纜此船遲々ニシテ數十日ヲ經過シ竟ニ十月二十日長崎港ニ達シ同日上陸ス

此航海中長門國下ノ關ニ入ルヲ得タルハ十月十一日也上陸薩士大阪ヨリノ來信アリ云本月二日二更江戸大震邸屋傾倒スルモノ十ニシテ八九深川本所下谷淺艸神田所在火ヲ失ス壓死スル者無數翌日火熄ト雖モ震ハ尚止マス云々衆聞此報惘然如醉

高柳兵助

長崎海軍傳習所ハ西役所ヲ以テ之ニ充ツ是奉行之別役宅ニシテ監察ノ此地ニ在勤爲ス者此宅ヲ以テ旅館トス當時永井氏爰ニ住居ス今假ニ之ヲ教場トナシテ別ニ教場ヲ設ケス我輩上陸マタ此邸中ニ居ス後五六日ヲ經テ永井氏諸士ヲ率ヒ出島和蘭館ニ到リ入門之式ヲ行フ皆禮服ヲ用ユ

教師ノ人名官職給俸

一ヶ月	一ヶ年		
四百五十ギュルデン	五千四百ギュルデン	和蘭海兵指揮役	
二貫八百十二匁五分	三十三貫七百五十目	第一等士官	ク、セセ、ベルスレイケン
二百五十ギュルデン	三千ギュルデン	士官筆頭	
一貫五百六十二匁五分	十八貫七百五十目	第二等士官	ア、ア、スガラウエン
二百廿五ギュルデン	二千七百ギュルデン	第二等士官	セ、エーグ
一貫四百六匁二分五リ	十六貫八百七十五匁		
同	同	第二等公用方士官	セ、ハ、ブ、デヨング
同	同		

百廿五ギュルデン 七百八十一匁二分五リ	千五百ギュルデン 九貫三百七十五匁	第三等機關方	セ、イ、ドール ニキス
同	同	同	ハ、イ、エーフエラールス
同	同	水夫頭	ブ、 クリユムプケ
百ギュルデン 六百廿五匁	千二百ギュルデン 七貫五百目	兵卒組頭	イ、イ、シキンケレンベレトグ
同	同	第一等水夫頭格	ブ、 ウールセンビユルグ
同	同	第二等大工	ム、ム、 ヘルフ井ン
七十五ギュルデン 四百六十八匁七分五リ	九百ギュルデン 五貫六百廿五匁	第二等帆縫	セ、ア、ブアンウエールト
百ギュルデン		第一等水夫	ク、 ドイド
同		同	ル、 デコロウ
六十五ギュルデン 四百六匁二分五リ	七百八十ギュルデン 四貫八百七十五匁	同	セ、 ホブペンブロウウル
同		同	フ、 ブラーウ
同		同	ブ、イ、 カラームル
同			
同			
同			
同			

同		第二等水夫	イ、イ、 ミツキマン
同		同	ル、イ、ヘフテイ
七十五ギュルデン 四百六十八匁七分五リ	九百ギュルデン 五貫六百廿五匁	第一等火焚	ブ、ハ、 レイスト
同	同	同	ト、 カラース
同		同	イ、グ、ドールナール
同		同	イ、 ウスコクトマンス

一ヶ年
三万千五百六十ギュルデン
百九十七貫二百五十目
金ニメ
三千〇三十四兩銀四十目

教授之學科

航海術　船將
運用術　スガワウ氏
造船學
砲術
船具學　エ―グ氏
測量術
算術　デヨング氏
機關學　機關司
砲術調練　セルシアント

我カ水夫ハ讃岐國鹽飽島之民ヲ以テ艦内陸上ニ就テ學ハシム此島民ハ元來我カ廻船ヲ乘ルヲ以テ常業トス是昔ヨリノ慣習ナリ故ニ此島ニ令シ若年ノ者ヲ選ミ以テ軍艦乘組ノ水夫トス

會計及ヒ雜務取扱

徒目付
中臺信太郎
小田切鋼一郎
飯田孫三郎
石川周二

小人目付
山田八郎
兼松龜次郎
高松彦三郎
宮崎寛三郎
伊澤兵九郎

傳習掛之地役人

池邊龍右衛門
緒方賢次郎
竹內勝三郎
伴梅吉郎
佐々木門次郎
山本辰彌
中村六之助
土屋修藏
吉村虎二
武井茂四郎

中尾若次
磯部春平
近藤又兵衛
本庄寛次郎
戸瀨榮之進
上原源六郎
牧斐之助
嘉悅平兵衛
横山喜三太
竹內卯吉郎
見島半太郎
吉田鶴次郎

傳習掛通辨官

森田壽兵衛
城島左太郎
倉田錦三
松下豐三郎
武井孝三郎
成田郡三郎
東原清次
塚原英次郎
尾山與一郎
笹山東吾

岩瀨彌七郎
荒木熊八
西慶太郎
本木昌造
楢林榮左衛門
西吉十郎
末永猷太郎
横山又之丞
志筑禎之助
三島末太郎
石橋庄次郎
西富太

諸藩傳習生

荒木卯十郎
植村直五郎

鹿兒島藩

木脇賀左衛門
沖直次郎 一平
本田彦次郎
川南清兵衛
五代才助 友厚
鍬田諸右衛門
加治木清之丞

波江野
二之方良右衛門
成田彦十郎
磯永孫四郎
税所四郎左衛門 篤敬
川村與十郎 純義
北郷要人
近藤七郎左衛門
松本十兵衛

熊本藩

池部啓太

小佐井才八
奥山靜叔
莊林吉太郎
莊林助右衛門

福岡藩

津田權四郎
平賀磯三郎
香西少輔
中上源八
伴　新
西川吉郎左衛門

山崎雄
原田勝太夫
大原傳作
臼井錄次郎
立花五藏
大塚五郎太夫
河野禎造
原勝太郎
山路仁右衛門
松尾惣平
森十左衛門
小島傳次郎

磯山勝七
上田佐平
久我鬼平
中山半八
鹽川長次
山田與七
西村利平
川崎勘七
金子才吉
永野延助

萩藩

郡司千左衛門
正木市太郎
山田七兵衛
戸田龜之助
梅田寅二郎
波多野藤兵衛
山本傳兵衛
戸倉豐之進
藤井百合吉
桂右衛門
香川半介
栗屋與三

道家勝次郎
野村彌吉
原田熊五郎

佐賀藩

石田善太夫
佐野榮壽左衛門常民
池尻勘太夫
島内榮之助
秀島轉成績
田中源右衛門
田中大之進

本島喜八郎芳武
宮田己之助
宮地平太夫
秀島藤之助
石井茂左衛門
馬渡七太夫
千布右喜太
伊東兵左衛門
高岸兵次
小部松五郎
川副與八
中野助太郎

田口忠藏貞通
岡鹿之助喜智
澤野虎六郎種鎮
增田左馬進明道
眞木安左衛門長義
中牟田倉之助武臣
馬渡八郎俊邁
片江久一郎
增田孫作
原元一郎
小出千之助
龜川新八

石丸虎五郎安世
松村一郎助安種
松永壽一郎
倉永十三郎
武雄左平太
本島藤太夫
中野喜右衛門
石黑寛二
田中近左衛門
田中彌三郎
福谷啓太
馬場磯吉

石井建一
村山又兵衛
田崎内蔵之進
平方治三太
坂田孫一郎

津藩

市川清之助
村田佐十郎
菅野秀二
渡邊七郎
橋本左源太

水谷八十八
瀧本重吉
深井半左衛門
山名正太夫
堀江鍬次郎
柳宗五郎
水沼久太夫

福山藩

前田藤九郎
前田德十郎
竹島猪八郎

前記中諸藩傳習生右之人員ニテ完全調整トハ固トヨリ云ヒ難シ必ス脱遺セル者數名アラン猶捜索シ得ルニ隨テ記入スヘシ

内田松藏（改稱佐原純一）

掛川藩

佐賀ハ其君侯識見卓越蚤トニ蘭學大ニ開ケ當時既ニ反射爐之設アリ是蘭籍ニ就テ建築スル所幕府モ依賴シ大砲數門ヲ鑄造セシム故ニ學士其人ニ乏シカラス傳習生之進退船舶之事佐野榮壽左衛門頭領トナリテ周旋スユヘニ列藩

甲賀郡之丞

ニ冠シ其熟習尤速カナリシ

其教授之時間朝八時ニ始メ十二時ニ終ル午後ハ一時ヨリ四時ニ到ル是陸上之教示ナリ又時々艦上ニ就テ其運轉諸帆之操作等實地演習アリ悉ク暗記セシメテ敢テ書記セシメス其言語ノ不通ナルヲ以テ通辨官數名ヲ役ス故ニ彼我互ニ隔靴之思ヒアリ教官ハ大ニ其教示ニ苦シミ生徒ハマタ暗誦ニ苦シミ甚タ勞苦ス矢田堀塚本永持氏之如キハ昌平學校ニ漢書ヲ學ヒ早ク學中少年才子ノ譽英敏之聞ヘアリト雖モ猶今日暗誦ニ刻苦ス其才之ニ及ハサル者之如キハ困苦之甚シキ亦宜ヘナル哉困學如斯後二三ケ月ヲ經少シク澁滯ヲ免レ前途期スヘキノ賴ミアルヲ覺ヘタリ

永井氏ノ區劃指揮其宜シキヲ以テ教師ノ歡心ヲ得又數名生